港湾振興便り

2016．8
第111号

＊：

目　　次

＊：

1　ポートエッセイ

―新潟市で「ブラタモリ」
地形と歴史が地域の魅力―
～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長）篠田　昭～

2　トピック

● 小学生を対象に岩内港みなと見学会を開催しました！
（北海道開発局　港湾空港部　港湾計画課）

● 2016発見！酒田みなとの探検隊を開催しました
（山形県県土整備部港湾事務所）

● 酒田港　ポートセールス協議会『外航クルーズ船誘致部会』発足
（酒田市商工観光部商工港湾課）

● 酒田港 「2016みなとオアシスまつり」が開催
（酒田市商工観光部商工港湾課）

● 聖籠マリンフェスタ～聖籠海まつり～2016を開催
（聖籠町東港振興室）

● 「富山湾ふれあいビーチフェスティバル」が開催されました。
（北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所）

● 第10回ビーチライフIN新潟が開催されました！
（北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所）

● 敦賀港カッターレースが開催されました！！
（北陸地方整備局 敦賀港湾事務所）

● 清水港・みなと色彩計画25 周年記念事業
清水港の未来を創るアートプロジェクトを実施　～日の出岸壁改良工事とのコラボ企画を開催中～
（中部地方整備局　清水港湾事務所）

● 6,000 人以上が来船！！日本を代表する多機能船「清龍丸」「白龍」の一般公開　“海フェスタ東三河”
（中部地方整備局　名古屋港湾事務所）

● 『みなとオアシスこざ』本登録について
（近畿地方整備局　港湾空港部）

● 大型クルーズ船が熊本地震後「八代港」へ初寄港！！
（九州地方整備局 港湾空港部 港湾物流企画室）

３ お知らせ

＊：

１ ポートエッセイ

―新潟市で「ブラタモリ」
地形と歴史が地域の魅力―

～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長）篠田　昭～

＊：

（新潟は砂の町！？）

「ブラタモリ、面白かったね」―いま、新潟市で色々な会合に出席すると、７月３０日に NHK で放映された「ブラタモリ」のことが話題に上る。「新潟は砂の町！？」とのタイトルがついた「ブラタモリ・新潟市版」のことだ。人気番組なのでご覧いただいた方もいらっしゃるだろう。地域の魅力は地形と歴史にあることを再認識させられた内容だった。

新潟は、日本一の大河・信濃川と、それに次ぐ水量を持つ阿賀野川という二つの母なる川から育てられた地域だ。開港五港の一つである新潟港も、日本一の美田地帯も、二つの大河が運んだ「水と土」から生まれた。日本一「大量の水」と「多様な土」との共存は生易しいものではなかった。今年は「横田切れ」と言われた大洪水から１２０年目の節目の年でもある。この大洪水を契機に大河津分水の必要性が再認識され、明治の初めにいったん中断された世紀の大事業が再開された。百人もの尊い人命を犠牲にして１９２２年に大河津分水が完成し、はじめて越後平野は日本一の美田へと生まれ変わる土台がつくられたのだ。

（水と土の芸術祭とも通底）

大量かつ多様な土との闘いも半端ではなかった。その土砂の中でも最も手強い相手が砂であった。二つの大河が運ぶ土砂は、日本海に沿って砂丘列を形成し、陸側は日本海への出口を求める悪水がたまって低湿地帯が広がった。新潟は海岸線に沿った砂丘列と低湿地帯だけでなく、内陸部にも歴史の古い砂丘列があり、またそこに低湿地帯が連続するという特異な地形が最大の特徴だ。その地形を克服しながら湊と田んぼをつくり、暮らしを営んできたのだ。

私たちは、先人たちの水と土との闘いを忘れることなく、人と自然との関わり方を見つめ直し後世に伝えよう、との気持ちを形にする現代アート展「水と土の芸術祭」を２００９年にスタートさせ、２０１５年までに３回積み上げてきた。この間に新潟市は「文化創造都市」としての特性が大きく伸び、昨年は「東アジア文化都市」に選定された。いまも各地で地域文化を大切にし、新しい文化を育てる取り組みが広がってきた。

（タモリさんもびっくり）

番組でも紹介されたが、先人たちは流れを変える大河に寄り添うように町を移し、新たな町建てをして新潟湊、沼垂湊を育ててきた。低湿地帯には大排水機場をつくり、へそまで浸かる深田を日本一の美田に変えていった。タモリさんもびっくりの毎秒６０トンの水を排出する鳥屋野潟の親松排水機場や、新潟西港の２４時間浚渫などの働きの上に、新潟市の暮らしは成り立っていることを再確認することができた。

同時にそんな新潟だから今も花街文化が息づき、気楽にお座敷遊びが楽しめる粋な街であることもご紹介いただいた。

（飛砂を防ぐ植林に力）

砂丘列に町をつくり、畑を広げるためには、飛砂を防ぐ植林が欠かせなかった。江戸時代以前から始められた植林に注目したのが、幕末に新潟湊が天領になって赴任した初代奉行・川村修就だった。町人たちが育ててきた松林に感心して、組織的に植林を奨励した。今回のブラタモリでは植林の大変さや重要性は割愛されてしまったが、新潟のまちづくりにとって飛砂防止はいまも欠かせない。中央区の松林では植林や愛護活動が地域の皆さまのご協力を得て続いているし、西区では大量の飛砂を盛土で抑える新しい方式を導入し効果を挙げている。

（大地の再生にも挑戦）

北区でも新しい取り組みが始まった。大地の再生に実績のある高田造園設計事務所の協力を得て、海岸林の再生に挑戦している。事務所代表の高田宏臣さんは「舗装道路やコンクリート建造物ができると、大地の中の気脈・水脈が断たれ、息苦しくなって弱った松が松くい虫被害の対象になる」と言う。昨秋から北区の松林の一角で大地の再生作業に挑戦し、目に見える効果も出てきた。海岸林の再生は全国的課題だ。新潟市では今後、ドローンなどの新技術も活用して松くい虫被害を早期かつ的確に把握して対応すると共に、抜本的な海岸林の再生にも踏み出したい。

＊：

２　トピック

＊：

●　小学生を対象に岩内港みなと見学会を開催しました！

北海道開発局　港湾空港部　港湾計画課

７月６日（水）、「岩内港みなと見学会」（北海道開発局小樽開発建設部主催）が開かれ、岩内町内の小学３年生９１人が参加し、港内の設備の役割などを船上から学びました。

子供たちはライフジャケットを着た後、港湾業務艇「ひまわり」に乗船。「防波堤の外側に積まれたブロックには、波の力を弱める効果があります」といった船上アナウンスを聞きながら、約２０分間かけて港の様子をみて回りました。

生徒からは「岩内のまちを海の上から見るのは初めてで新鮮。水しぶきが冷たくて気持ち良かった」などと好評でした。

【洋上からの見学会の様子】

●　２０１６発見！酒田みなとの探検隊を開催しました

山形県県土整備部港湾事務所

山形県内の小学生児童とその保護者を対象にした「発見！酒田みなとの探検隊」が7月2日、酒田港周辺で開催され、参加者は、みなとの学習や山形県酒田海洋センターの見学、消波ブロックお絵かき体験、高砂コンテナヤード特別見学などを通じ、地域の港と海への理解を深めました。このうち定期旅客船に乗る行程は荒天による欠航のため中止となりましたが、50名もの親子が参加する賑やかな行事となりました。

みなとの学習では、日本では貿易の90%以上が港湾を利用していることや、酒田港に入港する船の種類、防波堤の役割などを学びました。海洋センター見学では、酒田港の歴史、船舶、水産、航海、税関業務などに関わる模型やパネルを見ながら、身近な港と海の大切さを改めて感じてくれたようです。

消波ブロックお絵かき体験では、2台のバスに分乗して酒田港北港地区のブロックヤードに降り立った親子が、50tのブロックを間近に見ながら、大きさや役割の説明を受けました。その後、24色のクレヨンでそれぞれの夢、魚や花など好きなものを思い思いに描きました。

高砂コンテナヤード特別見学では、通常は立ち入りできないふ頭内を見学し、コンテナクレーンやリーチスタッカーの大きさを実感しました。その後、税関の業務についての説明を受け、マスコットキャラクターとの交流や記念撮影などを行いました。

（主催：山形県、山形県港湾協会、NPO法人酒田港女みなと会議、共催：国土交通省東北地方整備局酒田港湾事務所）

【みなとの学習】

【海洋センター見学】

【消波ブロックお絵かき体験】

【高砂コンテナヤード特別見学】

●酒田港　ポートセールス協議会『外航クルーズ船誘致部会』発足

酒田市商工観光部商工港湾課

国、山形県、酒田市、関係団体等で組織する「“プロスパーポートさかた”ポートセールス協議会」総会が7月20日に山形市内で開催され、従来からの「コンテナ航路部会」に加えて、「外航クルーズ船誘致部会」が新たに発足しました。

コンテナ航路部会においては、好調なコンテナ貨物取扱量の更なる増加に向けた取り組みの実施、外航クルーズ船誘致部会においては、平成29年のクルーズ船の寄港に向けた誘致活動及び受入体制の構築を平成28年度の実施計画とし、官民一体となって取り組んでいくことを確認しました。

また、当日コスタ・クルーズより、平成29年（2017年）8月2日に「コスタ・ネオロマンチカ」の酒田港寄港が発表され、この発表を聞いた会員各位は更なる港湾振興に向けて機運が盛り上がりました。

【吉村　美栄子　山形県知事】

【矢口　明子　酒田市副市長】

【大沼　みずほ　参議院議員】

【小谷野　喜二　国土交通省東北整備局副局長】

●酒田港　「２０１６みなとオアシスまつり」が開催

酒田市商工観光部商工港湾課

7月31日（日）、みなとオアシス酒田に認定されている酒田港本港地区を会場に「２０１６みなとオアシスまつり」が開催されました。

当日は、快晴のもと、働く船の一般公開や山形県漁協女性部による浜焼き等の物産販売、ビーチサンダル飛ばし競争、魚型丸太釣り競争、山形県内キャラクターによる写真撮影会等が行われ、家族連れなど多くの来場者で賑わいました。

また、会場内では、「鳥海山・飛島ジオパーク」のＰＲブースや9月に山形県で開催される「第３６回全国豊かな海づくり大会」のＰＲブース、熱中症対策として有効なスイカをＰＲする『給スイカステーション』が設けられ、訪れた人たちの関心を集めていました。

みなとオアシスまつりは、山形県や酒田市、国土交通省東北地方整備局酒田港湾事務所等により構成される「海の日」記念事業実行委員会が、「海の日」記念事業の一環として、海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う『海の日』の意義を広く市民、県民に啓発するとともに、賑わい創出空間としての「みなとオアシス酒田」の形成推進と認知度向上を図ることを目的として毎年開催しています。

【若草幼稚園のみなさんが
「もしぇのんあののん音頭」を披露】

【酒田海上保安部による「海の安全教室」】

【遊佐町のキャラクター
「米（べい）～ちゃん」も大人気】

【「ビーチサンダル飛ばし」には長蛇の列】

●　聖籠マリンフェスタ～聖籠海まつり～２０１６を開催しました

聖籠町東港振興室

7月18日（月）海の日に、「聖籠マリンフェスタ～聖籠海まつり～2016」（主催：聖籠マリンフェスタ実行委員会）が開催されました。梅雨明け前でしたが晴天に恵まれたことで、会場の聖籠町海のにぎわい館及び網代浜海水浴場には約10,000人もの来場者が訪れ、終日賑わいを見せました。

会場では、釣船クルージング・セーリング・バナナボート・ジェットスキー・地引網などのマリンレジャー体験、砂浜宝探し大会・ビーチサンダル跳ばし大会などの砂浜でのイベント、ステージイベント・地域のグルメ屋台村など様々なイベントが実施され、来場者は初夏の一日を満喫されていました。

URL　http://www.town.seiro.niigata.jp/higashikou/marinefesta/index.html

【バナナボート体験】

【砂浜宝探し大会】

【地引網体験】

【　　ステージイベント
（HIPHOPダンスサークルのステージ）】

【来場者で賑わう網代浜海水浴場】

● 「富山湾ふれあいビーチフェスティバル」が開催されました。

北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所

平成２８年７月３０日（土）、富山市岩瀬浜海水浴場において、「富山湾ふれあいビーチフェスティバル」が開催されました。

本フェスティバルは、富山湾のビーチを活用し、若者や家族連れが参加できるイベントを通じて地域の活性化や環境意識を高めること等を目的に、地元関係者等からなる実行委員会により、今回初めて開催されました。

当日は快晴のもと、岩瀬浜ビーチクリーン作戦（海岸清掃）から始まり、ビーチヨガ、バレーボール教室、ビーチ空手、スラックライン（綱渡り）などのプログラムのほか、富山湾ＣＵＰビーチバレーボール大会が行われ、約３００人が参加し、大いに賑わいました。

オープニングセレモニーでは、地元選出国会議員や朝日健太郎日本ビーチ文化振興協会理事長等から、本フェスティバルが富山湾の魅力向上や発信に繋がるもので、今後の継続発展に期待する趣旨の挨拶がありました。

朝日健太郎理事長によるバレーボール教室には、今年２月に講演で訪れた岩瀬小学校児童も参加し、互いに再会を喜んでおりました。

【ビーチクリーン作戦】

【ビーチヨガ】

【朝日理事長によるバレーボール教室】

【ビーチバレーボール大会】

【スラックライン】

【ビーチ空手】

【フェスティバル参加者で記念撮影】

●　第１０回ビーチライフIN新潟が開催されました！

北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所

７月３１日（日）、記念すべき第１０回を迎えたビーチライフｉｎ新潟が日和山浜海水浴場にて今年も開催されました。今回はじめて“家族対抗はだし運動会”が開催され、約２０組の家族が参加し、おんぶ徒競争や家族対抗相撲で大盛り上がりでした。ビーチフラッグスやビーチ相撲等の一般参加型イベントも大盛況で、特に、あさり採りや宝探し、スイカ割りは子どもたちに大人気で楽しそうな笑い声に満ちていました。また、ビーチバレー大会やビーチサッカー大会も同時開催され、白熱した試合が展開されていました。水上バイクやモーターボートなどのマリンスポーツのイベントも開催され、日和山浜全体が賑わいの場となっていました。約３，５００人もの人が集まり、活気に溢れていました。

【宝探し】

【ビーチバレー】

【アサリ採り】

【家族対抗はだし運動会】

●　敦賀港カッターレースが開催されました！！

北陸地方整備局 敦賀港湾事務所

平成２８年７月３１日（日）、敦賀港川崎松栄地区（コの字型水面）において「第２１回敦賀港カッターレース」が開催されました。このイベントは、敦賀の夏の風物詩として港の活性化などを目的に、毎年開催されているものです。

今年も地元企業などを中心に３８チームが出場し、熱戦が繰りひろげられました。

今大会は、昨年度と異なり、前回大会のタイムなどに応じてグループ分けされた１部・２部の他、漕ぎ手の４人以上が女性で構成されたチーム限定の「女性の部」が７年ぶりに行われ、例年以上の盛り上がりを見せていました。

当日は、真夏にふさわしい晴天に恵まれ、灼熱の太陽の下で、スタッフや応援に駆けつけた観客などを含め総勢約８００名が、額に汗を流しながら出場チームにエールを送っていました。

当事務所にとりましても、毎年恒例の一大イベントとして、１３回目の出場をはたしました。昨年から平均年齢を“六つ”下げた若いチームとなったため、経験不足をチームワークで補いながら、２部の決勝進出目安である３分４０秒台をめざし、息を合わせて力の限りオールを漕ぎました。結果については、一致団結したチームワークがひかり、見事「ブービー賞」を受賞しました！！心地よい疲労感と互いの検討を称え、充実した１日となりました。

【開会式の様子】

【力漕する当事務所のメンバー】

● 清水港・みなと色彩計画25 周年記念事業
清水港の未来を創るアートプロジェクトを実施　～日の出岸壁改良工事とのコラボ企画を開催中～

中部地方整備局　清水港湾事務所

１．清水港・みなと色彩計画とは

清水港・みなと色彩計画は、世界に開かれた静岡の海の玄関口である清水港において、富士山と調和した人工景観を創出するため、平成３年度に策定されたもので、これに基づいて、市民・企業が主体となって美しいみなとまちづくりの活動が継続的に進められています。色彩計画は、これまで清水港の進化と共に歩み続け、今年で四半世紀、２５年の節目を迎える地域を代表する取組となっており、平成２７年度国土交通大臣表彰「手づくり故郷賞大賞部門」に認定されています。

２．「清水港 未来を創るアートプロジェクト」の概要

今般、海の日（７月１８日（月））のダイヤモンド・プリンセス号の寄港を皮切りに、色彩計画策定２５周年を記念するとともに、清水港の今後の更なる発展を願った企画事業として、『清水港 未来を創るアートプロジェクト』を開催しています。

このプロジェクトは、清水港に寄港する大型クルーズ船の受入環境を改善するため、７月１９日より現地着手した「日の出岸壁改良工事」と連携したコラボ企画となっています。

乗船客や一般市民の方から清水港に対する様々なメッセージを色彩カードにお寄せ頂き、これを工事期間中（H28.7 ～H29.3）に設置される工事用擁護ボードにアートとして貼付・掲載します。美しい清水港の姿を未来につなげるためのメッセージが港を訪れる人の目にふれ、景観の一部として記録される取組として期待しています。

すでにいただいたメッセージはアートとして活用しています。今後もクルーズ船寄港時には継続してメッセージを受け付けています。

【7月18日アートプロジェクト実施状況

【7月18日アートプロジェクト実施状況②】

【メッセージボードの貼付状況】

● 6,000 人以上が来船！！日本を代表する多機能船「清龍丸」「白龍」の一般公開
“海フェスタ東三河”

中部地方整備局　名古屋港湾事務所

7月16日（土）から31日（日）の16日間、東三河8市町村で開催された「海フェスタ東三河」において、7月23日、24日に名古屋港湾事務所所属の浚渫兼油回収船「清龍丸」、30日、31日に海洋環境整備船「白龍」の公開を行い、子供を含む一般の方延べ6,144名の方に乗船いただきました。

「清龍丸」では、浚渫機能や油回収機能、熊本地震時の支援作業について、パネル展示及び説明を行いました。また、船長室の公開や乗組員の制服を着ての記念撮影も行いました。

「白龍」では、船長席に座っての写真撮影や、航行船舶の安全性の確保と海洋環境保全のため、伊勢湾及び三河湾で作業を行っている浮遊物回収などについての説明及びパネル展示を行いました。

また、見学者の方からは、「船の機能の多さに関心を持った」「浚渫という言葉を初めて知った」といったご意見を頂きました。

【浚渫兼油回収船「清龍丸」】

【7月23日、24日　清龍丸一般公開の様子】

【海洋環境整備船「白龍」】

【7月30日、31日　白龍一般公開の様子】

● 『みなとオアシスこざ』本登録について

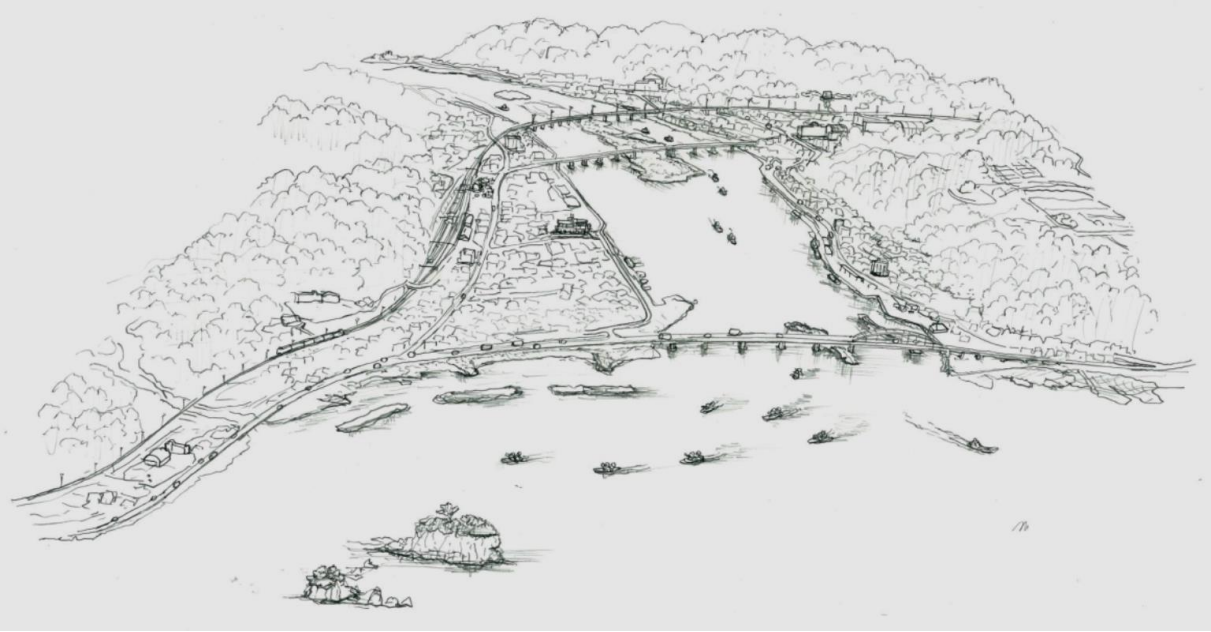
近畿地方整備局　港湾空港部

近畿地方整備局では、みなとの施設やスペースを活用した住民参加型の継続的な地域振興の取り組みが行われる地域交流拠点を「みなとオアシス」として登録し、活動支援やＰＲなどを行っているところです。

現在、北海道から沖縄まで全国で８９箇所（近畿で７箇所）が認定・登録されています。

７月２４日、港の施設やスペースを活用する「みなとオアシスこざ」の本登録を行いました。和歌山県下で２箇所目（全国９０箇所目・近畿８箇所目）の「みなとオアシス」となります。

海を舞台に歴史を彩った熊野水軍の拠点の一つ（古座水軍）として古い歴史をもつ古座港。「みなとオアシスこざ」はJR古座駅の古座観光協会を基本施設に、「司馬遼太郎も愛した古座街道」「南紀熊野ジオパークのダイナミックな自然の造形」「水辺で楽しむカヌーや魚釣り」など、豊かな歴史・自然を背景に育まれた地域の飾らない魅力を発信し、交流の促進を図っていきます。



● 大型クルーズ船が熊本地震後「八代港」へ初寄港！！

九州地方整備局 港湾空港部 港湾物流企画室

クァンタム・オブ・ザ・・シーズ

平成28年7月7日（木）、アジアに配船されているクルーズ船では最大規模の「クァンタム・オブ・ザ・シーズ(16.8万㌧)」が八代港に入港しました。

岸壁では、地元関係者による歓迎セレモニーが行われ、クルーズ会社や船長へ記念品贈呈や花束贈呈を行いました。

同船は、これまでも八代港に寄港した実績はありますが、4月に発生した熊本地震の影響を受け、5月と6月の寄港予定は国内の他港へ振り替えられていました。

国土交通省では、熊本県や八代市などと連携し、6月11日～13日にかけて、正確な情報を提供するため、クルーズ会社担当者に対し現地視察を実施して参りました。歓迎セレモニーでは、八代市長より「国・県・市の強い要請により、今回の寄港に至った。本日のクルーズ船寄港が復興の象徴としての役割も担っており、港の重要性を再認識した。」との挨拶がありました。

当日は、ほぼ満船状態である4,000名以上のお客さんを乗せ、「がんばれ熊本」と書かれた20メートルにも及ぶ垂れ幕を掲げ入港するなど、復興に向けて元気づけてくれました。また、今後も、クルーズ船が八代港へ入港して頂けるよう、熊本県や八代市などと連携して、受入環境や誘致活動の充実を図っていきます。

【地元の方による熱烈歓迎風景】

【記念撮影（一般見学者の方も一緒に）】

【クルーズ船には「がんばれ熊本!!」の横断幕が‥

【地元「秀岳館高校」生徒による「雅太鼓」と熊本県PRキャラクター「くまモン」によるお見送り】

＊：

３　お知らせ

＊：

◇　真夏の荒川～東京港を巡る船上親子学習

開 催 日：平成28年8月18日（木）　◯Aコース10:00～12:30　◯Ｂコース13:30～16:00

見学コース　〇Ａコース：番所橋船着場（乗船）→荒川ロックゲート→荒川航行→東京湾航行→東京ゲートブリッジ→青海客船ターミナル（下船）

〇Ｂコース：青海客船ターミナル（乗船）→東京湾航行→東京ゲートブリッジ→荒川航行→荒川ロックゲート→番所橋船着場（下船）

内　　容：関東地方整備局荒川下流河川事務所と東京港湾事務所は、２事務所合同企画として、平成２８年８月１８日（木）、小中学生とその保護者を対象に、荒川・東京港“船上”親子学習会参加者を募集します。

この学習会は、河川・港湾施設を水上からの視点で見て頂き、荒川放水路と東京港の役割について理解を深め、防災意識の向上や水上輸送を担う河川・港湾の重要性を親子で実感して頂くものです。

※船の定員の関係上、申し込み（7月29日(金)〆切り）が30名をこえた場合、参加者は抽選で決定します。

※応募の詳細は、以下の関東地方整備局公式HPまで。

主　　催：　関東地方整備局荒川下流河川事務所・東京港湾事務所
※関東地方整備局公式HP　http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/arage_00000174.html

◇ **酒田港　海のお仕事探検隊**

開催日　：　平成２８年８月２２日（月）
場　所　：　酒田港周辺
概　要　：　「海の仕事」に関する施設等の見学。

◇ EATBEAT! in Sakata Bay

開催日　：　平成２８年８月２３日（火）
場　所　：　酒田市内屋内施設
概　要　：　酒田の海の幸を食材の中心に据え、調理音をその場で録音、編集し楽曲にするライブパフォーマンスを実施。

◇ **「新舞子ビーチフェスティバル」（愛知県知多市）**

今年も夏の終わりを飾るみんなの心に残るイベントを開催！
花火大会、ステージイベント、婚活イベント「海コン」等を開催します。
フィナーレの花火大会は、新舞子のロケーションを活かし、
水中スターマイン等を海上の台船から打ち上げます。
胸焦がす、夏色の思い出づくりに、新舞子へ是非お越しください。

開催日　：　平成２８年８月２７日（土）午後５時から午後８時
（花火大会は午後７時から）
（荒天等の場合は２８日（日）に順延します。）
場　所　：　新舞子マリンパーク（愛知県知多市緑浜町２番地）
詳細はＨＰで
http://www.city.chita.lg.jp/docs/2016042800025/

◇ **漂流漂着ゴミの学習及びビーチクリーン**

開催日　：　平成２８年９月３日（土）
場　所　：　酒田市大浜海岸
概　要　：　海岸清掃と漂流漂着ゴミの分別等による学習

◇ **大浜海岸ビーチイベント「酒田ビッグビーチフェスタ2016」**

開催日　：　平成２８年９月２２日（木）
場　所　：　酒田市大浜海岸

概　要　：　ビーチバレー等、海岸での多彩な催しを開催

◇ 公認釣りインストラクター募集

１、公認釣りインストラクター資格区分

① 海　面：船釣り、磯釣り、投げ釣り、擬似餌釣り(ルアー、フライ)

② 内水面：渓流釣り、清流釣り、止水釣り、擬似餌釣り(ルアー、フライ)

※２０歳以上ならだれでも受講、受験可能です

２、養成講習会会場、日程

①東京会場：東京海洋大学(品川キャンパス)

平成 28 年 11 月 12 日(土)～13 日(日)

②大阪会場：ヒューマンアカデミー大阪心斎橋校

平成 28 年 12 月 3 日(土)～4 日(日)

３、資格試験

2 日目の講習終了後、午後から同じ会場で実施

４、申し込みの締め切り　　講習会の 1 週間前

５、受講、受験料　　20,000 円

６、お問い合わせ、お申し込み先

(一社)全日本釣り団体協議会

〒102-0074 東京都千代田区九段南 4 丁目 6 番 13 号ﾆｭｰ九段ﾏﾝｼｮﾝ 1001 号

TEL　０３－３２６５－４１９１　FAX　０３－５２７５－７０７７

メール　：　jimukyoku@zenturi-jofi.or.jp

詳細はホームページの『インストラクター』≪募集要項≫をご覧ください

http://www.zenturi-jofi.or.jp/

７、主催者　：　一般社団法人 全日本釣り団体協議会

＊：＊：＊：　本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先　：＊：＊：＊：＊：＊：＊：

日本港湾振興団体連合会事務局

〒105-0002　東京都港区愛宕1-3-4

TEL：03-5776-0630

FAX：03-5776-0631

e-mail：bcf06323@nifty.com

＊：